

吾妻地区 ウォーキングマップ

庭塚編

コース案内 距離 約6km

吾妻学習センター分館 → ①大八嶋国造神社 → ②稲荷神社 →
 ③森合古墳・児塚碑 → ④鶴沼伝承地 → ⑤鶴沼大明神碑 →
 ⑥庭塚村道路元標 → ⑦薬師堂・阿保原地蔵堂 →
 ⑧渡辺の道標 → ⑨篠塚の阿弥陀堂 → 吾妻学習センター分館

歩数

時間

男性：7,500歩（歩幅80cm）

ゆっくり歩く（時速3.2km/h）：1時間55分

女性：9,600歩（歩幅62cm）

普通に歩く（時速4.8km/h）：1時間15分

子ども：13,300歩（歩幅45cm）

早足で歩く（時速5.6km/h）：1時間5分



吾妻地区 ウォーキングマップ

庭塚編

経路コース

協力

あづまの里ふるさとウォーク
実行委員会

吾妻地区健都ふくしま創造推進会

1

大八嶋国造神社

【所在地】
二子塚字縫ノ妻
【由緒】

崩れかけた白壁にトタン葺きの社殿がひっそりと佇んでいる。

底の下に多数紐で吊るした穴の開いた丸形の平石は、「いぼ取り様」との信仰があったという。

境内奥には、右から享保十九(1734)年11月25日銘の「庚申供養塔」以下年不明の「足尾山」「弁財天口」「二十三夜」の文字石塔が並ぶ。戦後しばらくは通称「庄屋」を中心に祭礼も行われたが、「庄屋」が不在となり、神事は行われてない。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



社殿

平石
「いぼ取り様」



2

稲荷神社

(溝口大明神碑・堰供養碑)

【所在地】
二子塚字稲荷前
【由緒】

稲荷社の裏手に「溝口大明神」と大書された碑が建つ。寛政元(1789)年二子塚村は越後新発田藩溝口家の支配するところとなった。悪水で悩んでいた領民が烏川新堰普請を願い出た所、人夫一万二千人、米八十二石余、用材費及び人夫料として金百四十五貫文を出資、またある時は飢饉に際していち早く免税する等の仁政が行われた。藩主溝口伯爵守を慕う領民の手で碑が、安政二(1855)年に建立され、社殿裏中央に堂々と立っている。右隣には烏川・目洗川堰の新設に際し、文政二(1819)年三月建立の「堰供養碑」もあり、

良質で安定した農業用水確保が地域の重要課題だったことを窺わせる。新発田藩は越後で阿賀川の治水と新田開発で土木工事の実績があり、信夫郡統治でも本領を發揮したといえる。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



左:溝口大明神碑
右:堰供養碑



稲荷神社

3

森合古墳・児塚碑

もりごう

【所在地】
二子塚字小塚・森合
【由緒】

並んで石碑が二つある。標柱に近い碑が「児塚」で、他方には「道路記念碑」と刻まれている。

「王老杉物語」の美女おろす(おろす)が産んだ双子を、不祥の子としてここに葬ったとの伝承がある。小さな自然石が児塚であり、二子塚地名発祥の地という。付近から円筒土器出土、古墳時代末期と確定。現在古墳はなく、水田の傍らに自然石一つを遺す。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



4

鶴沼伝承地

【所在地】
二子塚字南谷地
【由緒】

小さな沼が遺されているが、元はもっと広い沼地であった。善助爺さんに助けられた鶴の恩返し伝承の地だ。同じような話はあちこちに遺されている。

「鶴沼大明神碑」はここから中谷地に移された。
(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



5

鶴沼大明神碑

【所在地】
二子塚字中谷地
【由緒】

中谷地集会所奥に石塔が五基並ぶ。左から二番目の石碑に「鶴沼大明神」と刻まれている。かつて鶴沼の畔にあった碑がここに移されてある。

以前は集会所の位置に「保食姫命(うけもちひめのみこと)」を祀る石祠があった。拝殿は遠藤家の屋敷内にあったという。鶴沼にまつわる鶴の恩返し伝説に由来する「鶴沼大明神」を祀った。集落の氏子中によって神事が続けられている。

※「保食姫命」：日本神話に登場する神。食物を司る神。
(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



五基の石塔

鶴沼大明神碑

6

庭塚村道路元標

【所在地】
在庭坂字五十須場
【由緒】

旧庭塚村役場の前からここを起点と定めて移された。

※道路元標：明治初期の「里程元標」の後に、大正時代に定められたもの。府県庁師団司令部、鎮守府、郡市役所または町村役場の前に、各市町村に一個ずつ建てられた。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



7

薬師堂・阿保原地蔵堂

【所在地】
在庭坂字五十須場
【由緒】

それぞれ一対の石灯籠を備え、右に薬師堂、左に阿保原地蔵堂が並ぶ。薬師如来は病氣平癒、心身壮健の現世利益の仏として、阿保原地蔵尊は子供を守り、口中一切の病気を治す仏として信仰されている。地蔵堂は焼野の阿保原地蔵尊のある場所にあったが、昭和四十年代前半頃に現在地に移築、更に立て替えている。緑日には五十須場念仏講約四十戸により供養が行われる。

地蔵堂脇と裏には二十基以上の石塔石祠がある。旧家や近隣の道路端にあった物を移設したもので、宝暦十一(1761)年の大黒天供養塔、明和四(1767)年の六字名号塔の他、巳巳待碑、出羽三山碑、馬頭尊碑などが並んでいる。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



阿保原地蔵尊



薬師堂

8

渡辺の道標

【所在地】
在庭坂字渡辺
【由緒】

道標の中央に南無阿弥陀仏の六字名号、「左にハさか・いゝさか 右高湯道」、安永八(1779)年とある。

水天宮碑もそばに立つ。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)



9

篠塚の阿弥陀堂

【所在地】
二子塚字篠塚
【由緒】

阿弥陀如来は、死後の衆生を西方浄土に迎えてくれる仏様。緑日には境内に櫓が組まれて子供たちの踊りが奉納されるなど近隣の人々に親しまれている。

(吾妻地区「ふるさとの文化財」より)

